

せていただいて、今年度は、月額18万1,000円としたところでございます。さらに、保育士の負担軽減のため、障害児保育や延長保育のための保育士の加配を行いまして、労働環境の改善にも努めてきたところでございます。

今後とも、待機児童の解消を初め、さまざまな保育サービスの充実と保育士が働きやすい環境づくりを進めていくなど、将来の水戸を担う子どもたちと、子どもたちを取り巻く全ての人たちの笑顔のために、子育て支援の充実や子育てしやすい環境づくりに努めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（村田進洋君） 5番、大槻奈菜君。

〔5番 大槻奈菜君登壇〕

○5番（大槻奈菜君） 常磐大学の大槻奈菜でございます。水戸市女性議会2016に当たり、常磐大学コミュニティ振興学部横須賀ゼミナールを代表して、通告に従い、質問いたします。

初めに、先日行われたアメリカ大統領選挙で、女性候補のヒラリー・クリントン氏が破れ、アメリカでもまだガラスの天井がある、あれだけ女性経営者など女性が活躍しているアメリカでも、まだ女性の社会進出に壁があることを感じました。

私も4月になれば社会人として男性と対等に仕事をし、社会的な活動が本格的に始まります。今は学生ということで社会が優しい目で見ているということも実感しておりますが、今どきの若い子ということも何となく感じております。

女性でかつ今どきの若者に、このような公式の場で発言し、意見を述べる機会を与えていただいたことは、これからの社会人としての活動に大きな力をいただいたと思い、感謝しております。

さて、本題に入りますが、水戸の大学に来てから、水戸の中心市街地の活性化と笠間の市街地活性化にかかわってまいりました。水戸と笠間の大きな差は、水戸は活動に対して対等の立場で、通常の業者による営業のような社会訓練の場でもありました。笠間は、学生として受け入れて活動を助けてくれるような体制でした。そのため、集合や打ち合せの場には困ることもなくスムーズに活動ができ、東京からの大学も含め、多くの活動が見られました。水戸は、南町の情報交流センターで事前電話一本、時間の調整さえすれば集合や打ち合せ、研修など、駅から大工町の間地点で活動の本部的な役割を果たしてくれました。

しかし、今年度から私たちはその拠点を失い、大学集合、大学発で活動せざる得ない状況となり、活動の停滞がみられました。中間地点での集合や打ち合わせも、京成デパートのロビーなどしかなく、あとはお金を使って食事等の飲食による場しかありません。自分たちだけでなく、笠間のように水戸以外の大学生の活動フィールドとすることや、何といたってももったいないのが高校生——まちなかのバスや自転車で通過する高校生の数は、まちなか歩行者より多いのです。この高校生がまちなかの拠点を活用して中心市街地で何らかの活動を始めれば、もっとまちなかが若者を含めた活気ある場になるのではないのでしょうか。

南町のライトハウスに集まる若者は、ライトハウス前のセブンイレブン以外にたむろする場所がありません。

新しいく開設されたワグテイルは、全く違った目的向けの施設で、まちなかの現状が向かっている方向に対し、逆向きを指しているようにしか見えません。昨年度末までの南町の情報交流センターに集まってい

た人々の数と、今回の補助金がつくことで開設されたと想像するワグテイルの利用者数は、どのくらい月々で差があるのでしょうか。起業家を育てることの意義は十分理解しますが、それは中心市街地でなくとも、どこでもいいようにも思えます。

中心市街地における公または公同等の施設は、何かそこに足りないものを補完する役割が大切と考えております。

水戸の中心市街地は、公園もなく、自由にくつろげる場のない空間であることが最大の問題点といえます。大学生や高校生、大人もお年寄りも自由に休んだり集合場所にしたりできる場が、屋外にも屋内にもないのが水戸の現況です。中心市街地の計画策定をなされた市の方々は、その現実を理解しているものと思っております。私は3月に卒業しますが、後輩の活動のためにも、自由に活動のフィールドを中心市街地に持つよう、拠点となる場を示していただきたいと思っています。

次に、先月のまちフェスを見て感じたことを付け加えさせていただきます。

学生ボランティアで多くの学生が参加しましたが、その多くは無給のアルバイトに近い形での参加にとどまっています。企画段階からの学生参加が次の活動につながり、中心市街地が活動フィールドになっていくのではないのでしょうか。

加えて、道路部分でのまちフェスと両側の商店が全くかみ合っていない別世界であることに皆、驚きました。ワンコインスタンプラリーの500円スタンプをもらえるような、500円以下で何か手に入れられるお店には客が集まり、道路部分、ワンコインショップ、商店街と三分化された世界になっていました。イベントをただすればよいのかという世界に見えてしまい、残念に思います。まちフェスのための公的な資金の利活用について、具体的な商店街とのやり取り等ありましたら、ぜひお示し願います。

最後に、水戸市は、高等学校数も多く、中心市街地周辺に数多くあることから、自転車やバイクによる通学の姿を多く見ますが、中心市街地で活動する姿は目にすることができません。大きなイベントで一時的に人を集めるより、そこそこ周辺にいる人々への中心市街地への誘導が大切だと思うのですが、何か高校生ばかりか、大人も含め、中心市街地の楽しさを市民に示す計画はあるのでしょうか。

以上になります。

○議長（村田進洋君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

市長、高橋靖君。

〔市長 高橋靖君登壇〕

○市長（高橋靖君） 常磐大学コミュニティ振興学部横須賀ゼミナールを代表されましての大槻議員の御質問にお答えをいたします。

初めに、中心市街地活性化のための学生活動の拠点についてでございますが、私は、中心市街地活性化のためには、多様な交流創出によるにぎわいづくりが必要であると考えています。

特に本市には、多くの教育機関が立地していることから、学生などの若い世代が、さまざまな活動のできる機会や場を設け、まちなかへと誘導することにより、新たな交流が生まれ、多様な人々でにぎわうまちが実現できるものと考えております。

御質問のありました、まちなか情報交流センターにつきましては、中心市街地のにぎわい創出を目的に

設置され、まちに訪れる方にさまざまな情報の提供を行うほか、高校生や大学生にも年間約30件の御利用をいただいていたところですが、スペースの狭あい等の問題もあったことから、時代のニーズを踏まえた新たな施設、いわゆるコワーキングスペース水戸ワグテイルに情報発信機能を統合し、まちなか情報交流センターにつきましては、本年1月に閉館をさせていただきました。

コワーキングスペース水戸ワグテイルにつきましては、起業、創業を目指す若い事業者等を育成し、支援することを目的に設置したものでございまして、本年3月の開設以来、共有オフィス機能のほか、創業相談、会議、各種セミナー等にも活用され、10月末現在で、延べ900名近くの方に御利用をいただいております。今後、産・学・官の連携として、学生とベンチャー企業との情報交換交流等にも活用を図っていきたいと考えております。

現在の中心市街地における学生を含めた市民活動や生涯学習活動につきましては、市民センター、みと文化交流プラザ等を御利用いただいている状況でございます。

また、新市民会館の整備に当たりましては、学生の皆様にも、自由に集い、自主的な活動ができるスペース等を設置していく予定でございます。

私は、学生を初め、若い世代の皆様が、まちなかでまちづくりに資する主体的な活動に取り組むことで、新しい感性や感覚がまちづくりに反映をされ、中心市街地の再生が大きく前進するものと考えておりまして、そのための拠点の確保は、学生の皆様方にとっても、本市にとっても有効であると考えております。今後、学生の皆様が求める機能と本市の拠点の考え方について、意見交換を行わせていただいて、中心市街地活性化に関する機関や民間団体等も交えた検討を進めてまいりたいと考えています。

次に、水戸まちなかフェスティバルにつきましては、今回からの新たな取り組みとして、これまでの大学生、社会人に加え、多くの高校生にボランティアとして、当日の運営に携わっていただきました。参加した高校生からは、すばらしいイベントに自分も役に立ててうれしかった、このような機会があったら、また参加したいなどの感想をいただき、御来場の皆様方からも、若者が懸命に活動している姿に感激したなどの声をいただきました。

私は、学生の皆様に中心市街地への積極的な関心とかかわりを持っていただけることは、学生の社会性を育むばかりではなく、水戸市全体の発展につながっていくものと考えておりまして、若い世代が生き生きと活動し、そして、暮らしていけるまちの実現に向け、大きく前進できたものと考えております。

フェスティバルへの学生の参加についてでございますが、本市の大学生や専門学校生には、これまでも、実行委員会に参画していただくとともに、みずからの企画運営により、出展団体として実践をしていただいております。人気のある出展として欠かせない存在になっています。

御提案のありましたフェスティバル全体の運営等への企画段階からの参加につきましては、学生の持つ新しいアイデアを盛り込むことは、新たな魅力創出につながることから、効果的な参加方法等について、学生の皆様と協議をしてまいりたいと考えております。

フェスティバルでは、中心市街地のにぎわいづくりや商店街の振興を図るため、各商店会の皆様方にも、実行委員としてイベントの企画運営に携わっていただいております。

平成26年からは、中心市街地の各店舗をイベント来場者に回遊していただけるよう、大型店が実施す

るスタンプラリー事業の、みとペタとの共催で、ワンコイン商店街が実施されています。今年度は70を超える店舗に御参加をいただいたところでもございまして、まちなかの回遊が図れるなど、大きな効果があったものと考えています。また、フェスティバルの開催により、中心市街地の各店舗の売上向上につながったとの評価もいただいているところでもございます。その効果を波及させ、さらに高めていくためにも、商店街を初め、学生の皆様にもアイデアを出していただき、来場者が中心市街地の新たな魅力を発見し、そして、今度はリピーターとしてまちを訪れていただけるような仕掛けを展開しながら、地域経済の活性化を図るとともに、フェスティバルを発展させてまいりたいと考えています。

次に、高校生のまちづくりへの参加の誘導についての御質問でございます。

私は、多くの高校生たちに、まちづくりに参加していただくためには、まず、まちに興味や関心を持ってもらうことが必要であると考えています。

情報誌やSNS、スマートフォンアプリなど、さまざまな媒体を活用して、水戸の魅力に関する情報発信を行っているところでもございまして、学生を初めとする多くの皆様に、まちに関心を持っていただけるよう、より一層、中心市街地の魅力発信の充実に努めてまいります。そして、まちづくりへの積極的な参加に向けては、学生の皆様が、普段から中心市街地とのかかわりを持つことが大切であると考えています。

既に、まちなかの環境美化活動や地域コミュニティ活動など、まちを支える地道な活動に、学生の皆様にも加わっていただいて、参加をいただいております。先月の水戸黄門漫遊マラソンにも、多数の高校生の皆様方にボランティアとして参加していただきました。

私は、こうした活動から、さらにまちづくりに興味を持ち、参加していただくためにも、高校生や若い世代の持つ感性や専門性を、魅力ある個店づくりやアートを活用したまちづくりに生かせるような取り組みなども進めてまいりたいと考えています。さらには、学生の皆様の初めとした多くの方が参加しやすく、まちづくりの楽しさを体験していただけるような取り組みや、主体的な活動へとつながる取り組みについて、今後とも、商店街を初め、民間事業者等とも連携し、検討を進めてまいりたいと考えています。

私は、これらの取り組みを通し、まちづくりへの楽しみをもって参加する意識を高めていただきながら、市民との協働による中心市街地の再生を目指していきたくと考えております。

以上です。

○議長（村田進洋君） 5番、大槻奈菜君、再質問しますか。いいですよ、どうぞ。せっかくですから。

〔5番 大槻奈菜君登壇〕

○5番（大槻奈菜君） 御回答ありがとうございます。

ぜひ拠点の確保をしていただけると、今日のことが意味のあることとして後輩に伝えられます。ですので、検討のほう、よろしく願いいたします。

○議長（村田進洋君） 要望ですね、要望、はい。

6番、渡辺莉奈君。

〔6番 渡辺莉奈君登壇〕

○6番（渡辺莉奈君） 茨城大学の渡辺莉奈でございます。水戸市女性議会2016に当たり、茨城大学人文学部馬渡ゼミナールを代表して、通告に従い、質問いたします。